



立体的ワンルーム 〈京島-M〉

所在地：東京都台東区
 建物用途：住宅
 主体構造：木造2階建て
 延床面積：48.89㎡
 設計期間：2009.01～2015.08
 工事期間：2015.09～2016.05
 写真：平林克己

敷地は都内木造住宅密集地の中の、敷地形状が間口4m奥行10mの狭小地である。間口が狭く、また隣の住宅が近接し公園にも面していることでプライバシーの問題から大開口の窓も設けにくい状況である。クライアントが要望する諸室を個別に部屋を配置すると、狭く暗くなりがちになってしまうため、諸室をスキップフロアや部分的な壁、凹凸のある屋根形状で分節する事で、建物全体が立体的なワンルームとなるような空間構成とした。室同士がゆるやかにつながりつつも、それぞれの場所で落ち着いていられるような、住民相互と内外のプライバシーを確保した広がりや明るさを感じられる様に計画した。開口部は、近接する住宅側や道路側は最小限にとどめ、天窓を設けたり、内部の様子が見えずぎないように高さを調整して、明るい南側の公園に面して窓を設けている。エントランスからリビングへの階段は最大1430mmの踏み幅で、上り下りしやすいだけでなく、上下階のつながりを強化するような形状とした。また、2階のリビングからルーム2への階段は蹴込みをなくす事で上部の光が下階まで届き、視線が行き交う様に配慮している。



2階リビング



道路側外観



1階ダイニング



2階リビング2



浴室



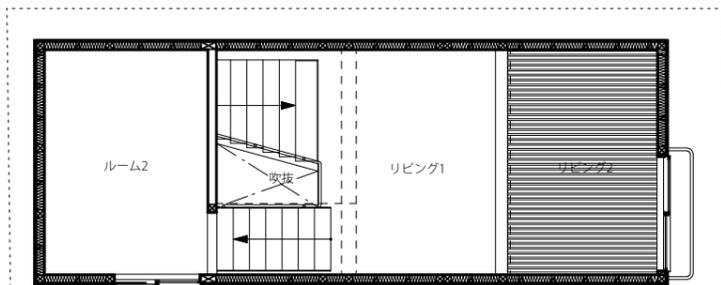
1階ルーム1

■構造計画

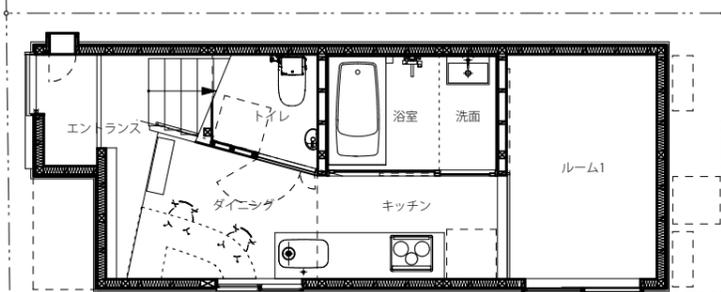
ワンルームに居場所を生み出すきっかけとなるこの屋根やスキップフロアは、構造面においても有効に働いている。断面的にひとつながりの空間となる構成上、柱の座屈や横からの力に弱くなりがちであるが、屋根形状の凹凸やスキップフロア床面における短手方向の梁が水平力に対応している。また、部分的に弱軸の梁(せい120mm幅240)を用いる事で、水平力に対応するように計画した。

■設備計画

建物全体が一体につながる空間構成に合わせて、ベタ基礎全体に蓄熱式床暖房設備を敷設した。ベタ基礎のコンクリートを温水管で温め、蓄熱体とする事で効率的に空間全体が適温となる様に工夫した。また、夏季においては、空間上部に溜まりやすい熱気を、温度センサー付換気扇と天窓から排出する計画とし、屋根においても通気層を確保し、日光の輻射熱と湿気を棟換気によって排出している。



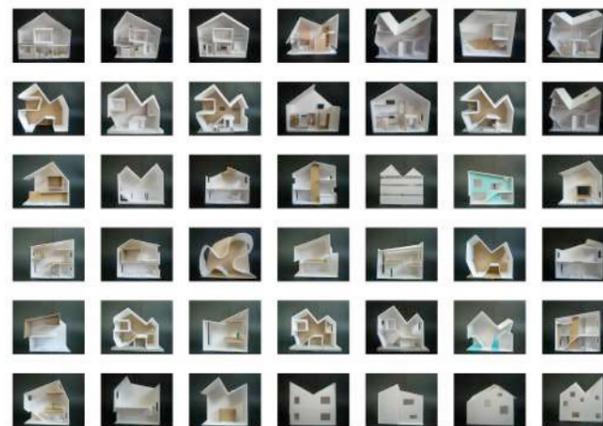
2階平面図(1/100)



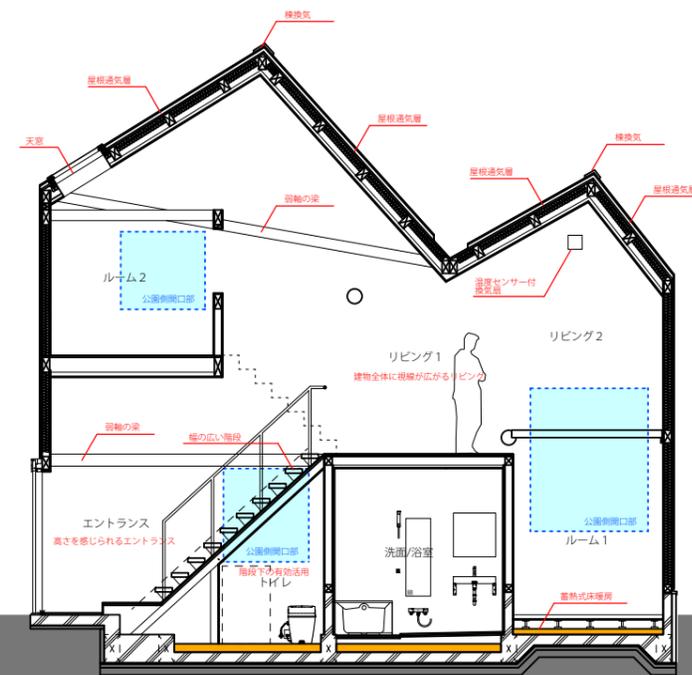
1階平面図(1/100)



■スタディ模型



平面的な狭さを断面的に解消できる方法を検討した。1階、2階と階層を決めてから吹き抜けでつなぐというよりも、大きなワンルーム空間に床を挿入したり、建物外形に凹凸をつける事で空間の居場所をつくるという考えでスタディを進めた。



断面図(1/100)